

福島復興支援 川俣町 × 近畿大学 project
かわまたシルクとアンスリウム染め

Renme

Vol.4

近畿大学文芸学部芸術学科造形芸術専攻染織ゼミ作品展



2025.11/23(日・祝)～2026.1/12(月・祝)

9:00～17:00(入館は16:30まで)休館日:毎週月曜日※祝日の場合は翌日

かわまたおりもの展示館 (道の駅かわまた施設内)

■主催:川俣町 ■協力:近畿大学・福島県織物同業会

○かわまたアンスリウム

Anthurium

1.アリーナ 2.サフラン 3.ローザ 4.ベルツィ 5.ユタ 6.スパイス 7.ロゼッテ
8.チアーズ 9.ショータム 10.マレーシア 11.エンジェルズ 12.プレビア 13.ミドリ



気候が生み出す鮮やかな発色と驚異の品質

アンスリウムは熱帯が原産で、暑さに強く寒さに弱い常緑多年草です。以前は、国産アンスリウムは一部の県で僅かに生産されておりましたが、川俣町で「ポリエステル媒地活用推進組合」が発足以降、独自の管理を施したハウス栽培により、年間30万本を超える日本一の産地となっています。生産量もさることながら、鮮やかな発色、品質の良さや、長持ちすること等が花き市場においても評価されており、ますますの需要が見込まれております。「かわまたアンスリウム」を復興の花として、多くの方に親しんでいただき、年間50万本の出荷目標を達成できるよう今後さらに魅力を発信していきたいと思っております。

近畿大学の支援とポリエステル媒地の採用

近畿大学(2017年に町と包括連携協定)は、「オール近大」川俣町復興支援プロジェクトの一環として、2013年に川俣町にビニールハウスを設置し、農業振興を目的とした研究・提案を行ってきました。その中で、古着などをリサイクルした「ポリエステル媒地」を使うことで、土壤汚染による風評の影響を受けにくく高品質の作物を生産できることを確認しました。また、肥料の調整が容易であり、連作障害も起きにくいなどのメリットがあり、ポリエステル媒地を採用して栽培を開始しました。これにより、地域全体で品質が揃った栽培が可能になり、一大産地を形成することが可能となりました。

かわまたシルクとアンスリウム染め

展示館では、国内外に知名度の高い「かわまたシルク」と注目されている「かわまたアンスリウム」の融合により、新たな特産品を目指し、平成29年より試験・研究を重ね、アンスリウムの情熱的で鮮やかな生命力を色として抽出し、シルクの上品な艶やかさに重ねた作品を制作してきました。

renmen Vol.4: 近畿大学文芸学部芸術学科造形芸術専攻染織ゼミ作品展について

今回で4回目の開催となります。今回も初回～第3回を引き継ぎ、テーマを「renmen」(=連綿)としました。かわまたシルクとアンスリウムの融合を持続可能なものとイメージし、そのテーマのもと染織ゼミの学生たちが作品を制作しました。学生ならではの感性によって生まれた作品を、「かわまたシルク×かわまたアンスリウム」の魅力とともにご覧ください。染織ゼミにおいて蓄積してきた展示や作品制作のノウハウと、川俣町のこれまでの取り組みとのコラボレーションによって、「かわまたシルク」と「かわまたアンスリウム」のさらなる魅力の発見に貢献できたらと考えています。

(近畿大学文芸学部芸術学科造形芸術専攻染織ゼミ一同)



かわまたおりのもの 展示館へのご案内

●電車・バスを利用

東北新幹線福島駅(東口)よりバスで45分
JRバス「川俣高校前行」で「シルクピア前下車」

●車を利用

東北自動車道二本松ICより30分
東北自動車道松川スマートICより30分